

日本の満州農業移民のねらいは?

1 日本人を「五族協和」の中核に

満州国の人口の1割を日本人が占めることで日本人を「五族協和」の中核とし、日本の影響力を確実にすることをもくろみました。満州の原住民は信用できない。植民地支配を安定させるためには、「国精神」で鍛えられた日本人を中核にすえようというわけです。

渡溝する第1次武装移民団明治神宮に参拝



(写真是『写説 満州』 ビジネス社より)

2 対ソ連戦を想定し、人的防波堤に

近い将来の対ソ戦を想定し、ソ満国境を移民で固めて「人的トーチカ」とすることをめざし、開拓団の多くはソ満国境の周辺に集中して入植しました。そして一旦緩急のときには、最前線に予備兵力の役割も担わせるということでした。

開拓団の入植により、ソ満国境まで鉄道・道路・通信施設が整備されたことは、そのまま軍事に転用できることになり、軍事基地の建設も可能になりました。



(写真是『写真記録 2 日中戦争』 ほるぶ出版より)

力を合わせ、「満州國」の豊かな国づくりを呼びかけるポスター

3 日本軍のための食糧・資源の補給基地に

開拓団でできる農作物によって関東軍は最前線で糧秣が確保でき、水源の確保と軍用馬の飼育などで開拓団は補給基地の役割をはたしました。1941年8月の対ソ戦に備えての関東軍特別演習(関特演)という70万人の大兵力動員計画が実施できたのも、「満業開拓団」の入植で軍に納入する食糧に一定の目鼻がついたためだといわれます。

埠頭に野積みされている大豆、材木



(写真上は『写真記録 2 日中戦争』 ほるぶ出版より)

(写真左・下は写真集『望郷満州』 図書刊行会より)



4 日本の零細農家を事実上切り捨て

日本の零細農家の半分を移住させることは、農業人口過剰農地不足解消を解決することでした。明らかな過剰な人口の切り捨て政策でもありました。

関連ホームページ



[NHKスペシャルによる永田稠と満州移住](#)